来賓講話　「憲法改正で危機に対応を！」　髙橋利行先生

髙橋利行先生

政治評論家、読売新聞元世論調査部長、解説部長、論説委員

東京都出身、昭和１８年生。中央大学法学部卒業後、讀賣新聞社入社。地方部・社会部を経て、政治部記者として田中派・竹下派・橋本派を中心に担当。外務省、自民党、首相官邸記者クラブキャップを経て、平成元年政治部次長。その後、世論調査部長、解説部長、論説委員、編集局次長、新聞監査委員長を歴任。平成１５年に退社後は、政治評論家として活躍。

4 月 13 日に J アラートが鳴って北朝鮮が ICBM らしきものを打って、北海道に落ちるんじゃないか、それで J アラートで避難してくださいと。皆さんどこに避難するんですか、日本の家の構造っていうのがですね、大きな地震とか津波がしょっちゅうあるわけで、コンクリートでしっかり作って、さらに耐震補強するということを一生懸命やった。しかし、ミサイル攻撃には対応できていない。第二次大戦の時は、木と紙で出来ているなんて言われて焼夷弾落とされて多くの死者が出ました。だからそれに耐えられるように一生懸命鉄筋コンクリートの家を作った。しかしミサイルが飛んで来たら、高層ビルなんていい標的ですよね。逃げろと言われても逃げるところがないんです。今回は、幸い日本の領海の外に落ちたらしいけれども、どんどん精度も上がってる、距離も延びてる、頻度も高まっているのはですね、脅威は皆さんのすぐそばにあるんですね。相手次第なんですよね。中国が台湾海峡に攻め込む、あるいは沖縄に来るとかそういう学者の指摘はたくさんあります。でも、尖閣とか台湾の方を守ってれば日本は安全なんですか。ある防衛省の方に聞いたところ、その保証はないそうです。先ほど緊急事態の時に清原会長が、軍隊の陸海空軍の総司令指揮官は内閣総理大臣であるとおっしゃって、海外の事例もみんな大統領が総司令官になってるという風な話をされました。だから戦う時は司令部を叩くのが一番なんですね。その為に弾道ミサイルみたいなのを飛ばしてくる。日本を飛び越えてアメリカへ飛ばすとか、潜水艦でアメリカの近くまで行って撃つとか、今やってるわけです。ですから、我々は予見を持たず、やはり日本を守る時はどういう風に守ればいいのか、そのことはやっぱり考えるべきであろうと思うんです。

来賓講話　「憲法改正で危機に対応を！」　髙橋利行先生

非常に色々と危機の対応大きく変わってます。危機は他国からの侵略に限らない。震災の話はそこにもう一つあるわけですね。富士山の噴火、南海トラフ・首都直下型地震、３０年以内に確率は50%とか60%と言われているんですよ。そういう危機がいっぱいある。さらにウクライナ危機によって明らかになったように食糧の問題、細菌の問題。細菌兵器っていうのは貧者の核爆弾といわれ、貧乏人が核兵器開発にお金がかかるから細菌兵器を開発する。そういう危機がいっぱいあるんです。宇宙にも広がってサイバー兵器、我々はそういうものにすべて対処していかなければならない。今すぐにでも憲法を変えなければいけない状況になってるんだろうと思います。

日本国憲法っていうのは確かに民主主義の民主的な権利がたくさん書いてある。こういうの昔もあったんですよ。ワイマール憲法というのがありまして、１９１９年ワイマール憲法がどのように終わったかというと、このワイマール憲法があったがゆえに、ナチスが生まれるんですよ。だから憲法というのは、日々生きていて変わっているんですよ。その現実に対処した変え方をしていかないと、憲法にすがりついてると、とんでもないことが起きるかもしれない。私は、憲法改正は随分遅れてるんだろうなと思ってます。読売新聞はずいぶん昔に憲法改正案を作りました。私案を作ってみました。でもそれからどんどんさらに変えていかなければ今の現実的な国際情勢の危機的な変化、そういうものには対処できないんじゃないかと思っています。ありがたいことに、平沢先生、小野先生がおっしゃったように、今まで全く動かなかった憲法審査会がやや動いたんです。どう動いたかというと、昨年は衆院で憲法審査会が２４回、参議院で１２回、今まで開くこともできなかったものが開けたんですよ。今年も衆院で既に９回、参議院で３回、開催されました。開催されたことに喜んじゃいけないんだが、今までがあまりにもひどかった。私なんか、よくここまで動いたなと、さあそこで今度は中山太郎さんの壁があって、これは全会一致じゃないとだめだとか、これをどうするかって問題は一つあるんでしょう。しかし動いたことは動いたんです。皆さんの熱意が動かしたんです。動き出したら止まらないようにしようではありませんか。それはやっぱり、これからの世の中、日本が生き残っていくためには、大きな壁を乗り越えていかなければだめでしょ。どんどん先に進めていかないともう日本は遅れてって、ついには憲法を守って国は滅びるというようなことになりかねない。そういうことをよくよく考えて日本の歴史は、世界の歴史を見るだけでなくて国際情勢そして地政学そして日本の防衛能力を勘案してなんとか現実的な選択を探ってほしいと思います。憲法改正をできるだけ早く実現するように努力をして、皆さん方のご協力をお願いしたい。こう思って私の話を終わらせていただきます。ありがとうございました。

（拍手）